

活動報告書

所属：一般検査研究班

提出日：令和7年7月15日

報告者：長 嘉 和子

| | | | | |
|----------|---|-------|-----------|--------|
| 行事種別 | 講演会 | 行事番号 | 250004360 | |
| 開催日 | 令和7年7月13日(日) | | | |
| 時間 | 開始 | 9時30分 | 終了 | 14時30分 |
| 場所・配信 | 修文大学医療科学部 (所在地 一宮市) | | | |
| テーマ | 日当直でも安心 尿沈渣の基礎 | | | |
| 生涯教育履修点数 | 専門教科 20 点 | | | |
| 司会 | 藤田医科大学ばんだね病院 進藤 龍太郎 技師 藤田医科大学病院 長 嘉 和子 技師 | | | |
| 講師 | 1. 「血球の見方」 中部大学 井上 千聖 2. 「上皮細胞の見方」 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 尾関 一輝 3. 「円柱の見方」 公立西知多総合病院 太田 達也 4. 「結晶の見方」 JA 愛知県 厚生連江南厚生病院 和田 裕司 | | | |
| 内容 | <p>本研修会は、尿沈渣における「血球」「上皮」「円柱」「結晶」の4成分に焦点を当て、特に初心者の方々を主なターゲットに、成分の出現機序、鑑別ポイント、疾患との関わりなどを、多くの写真を提示しながら具体的に解説を行った。</p> <p>参加者の約3分の1が初心者という構成であったが、研修会後のアンケートでは、どの分野においても「分かった」「よく分かった」という肯定的な回答が大多数を占めた。特に、自由記載の感想では「どういった機序によってその成分が出現するか解説いただいたおかげで、とても分かりやすかった」という意見が多数見受けられた。これは、単なる教科書的な知識の羅列に留まらず、実臨床での対応やポイントに言及した解説が、参加者の理解を深める上で非常に有効であったことを示していると思われる。</p> <p>また、開催場所である修文大学へは、公共交通機関を利用して来場された方と自家用車で来場された方の数はほぼ半々であった。このことから、今後も修文大学で開催する場合には駐車場の確保が必須であることが示唆された。</p> <p>今回の研修会は、初心者を対象としながらも、基礎知識に加え、臨床応用まで踏み込んだ内容を提供できたことで、参加者から高い評価を得ることができた。今後も、参加者のニーズに応じた実践的な研修会の企画・実施に努めたいと考える。</p> | | | |
| 参加者 | 合計：66名（会員58名、県外会員0名、講師4名、実務委員4名、非会員0名、賛助会員0名、学生0名、その他0名）事前参加申込数：57名 | | | |
| 共催、後援など | 該当無し | | | |

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

活動報告書

所属：一般検査研究班

提出日：令和7年11月12日

報告者：山口 高明

| | | | |
|----------|--|-------|-----------|
| 行事種別 | 講演会 | 行事番号 | 250013900 |
| 開催日 | 令和7年11月9日(日) | | |
| 時間 | 開始 | 9時00分 | 終了 16時30分 |
| 場所・配信 | 修文大学医療科学部 (所在地 一宮市) | | |
| テーマ | 「基礎からの着実なステップアップ」 | | |
| 生涯教育履修点数 | 専門教科 20点 | | |
| 司会 | 藤田医科大学岡崎医療センター 山口 高明 技師 | | |
| 講師 | 《午前》 1.講演①「一般検査室からのアドバイスサービス」 JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 伊藤 彰洋 小牧市民病院 診療技術局 前田 佳成 2.講演②「体腔液検査」 鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部臨床検査学科 助教 蜂須賀 大輔 司会：藤田医科大学岡崎医療センター 山口 高明 《午後》 実習1：「尿沈渣鏡検実習」 実習2：「症例：体腔液鏡検」 | | |
| 内容 | <p>本研修会は、講演会①として一般検査における「アドバイスサービス」をテーマに、尿沈渣や体腔液検査における結果報告の際の付加価値について、具体的な解説を行った。講演②では、体腔液検査における細胞種別検査での、基礎から応用まで実際の細胞の写真を多く提示しながら、具体的に解説を行った。</p> <p>午後からは実際の尿沈渣標本を使用した鏡検実習と体腔液の症例解説を並行して行い、参加者に自由鏡検してもらいながら、質問に対して班員が解説を具体的に行った。</p> <p>参加者は若手の技師が大半を占めていたが、研修会後のアンケートでは、どの分野においても「分かった」「よく分かった」という肯定的な回答が大多数を占めた。</p> <p>特に、自由記載の感想では「自分が知識不足なため基礎的な質問をいろいろしてしまいましたが丁寧に教えていただき助かりました。」「基礎講座というタイトルでしたが、初めて聞く内容もあり大変勉強になりました。」「臨床での考え方なども詳しく聞くことができとても勉強になりました。」など、基礎的な細胞成分の理解から実臨床での対応やポイントに言及した解説が、参加者の理解を深める上で非常に有効であったと思われる。</p> <p>今回の研修会は、比較的経験の浅い技師を対象としながらも、基礎知識から臨床応用まで踏み込んだ内容を提供できたことで、参加者から高い評価を得ることができた。今後も、参加者のニーズに応じた実践的な研修会の企画・実施に努めたいと考える。</p> | | |
| 参加者 | 合計：44名（会員28名、県外会員4名、講師3名、実務委員9名、非会員0名、 | | |

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和7年12月18日 報告者：前田 佳成

| | | | | |
|----------|--|--------|-----------|--------|
| 行事種別 | 講演会 | 行事番号 | 250019614 | |
| 開催日 | 令和7年12月13日(土) | | | |
| 時間 | 開始 | 15時00分 | 終了 | 17時00分 |
| 場所・配信 | 愛臨技事務所(所在地 名古屋市中村区)・ライブ配信 | | | |
| テーマ | 「腹水濾過濃縮再静注法(CART)を知る」 | | | |
| 生涯教育履修点数 | 専門教科 | 20 | 点 | |
| 司会 | 小牧市民病院診療技術局臨床検査科 前田 佳成 技師 修文大学医療科学部臨床検査学科 岩崎 卓識 技師 | | | |
| 講師 | 講演1. 15:00~16:00 「腹水濾過濃縮再静注法(CART)の基礎と臨床」 大阪赤十字病院 医療技術部 第一臨床工学技術課 課長 石原 健志 講演2. 16:00~16:25 「CARTの目的と方法」 山下病院 臨床検査科 検査技師長 安田 信博 講演3. 16:25~16:50 「CARTの検査とその評価」 山下病院 消化器内科 医長 山下 彩子 | | | |
| 内容 | <p>腹水濾過濃縮再静注法(CART)は、難治性腹水に対する支持療法として広く用いられており、患者のQOL向上に大きく寄与する治療法である。一方で、腹水の性状や原疾患、実施体制によって留意すべき点も多く、多職種による理解と連携が不可欠である。この観点からCARTへの理解を深めることを目的として本講演会を開催した。</p> <p>講演1では、臨床工学技士の立場からCARTの基礎から実践までが体系的に解説され、装置構成や回路、運用上の注意点について理解を深めることができた。研究データを基にした、現在のTP・ALB回収率の考え方や導入患者の推移など示された。</p> <p>講演2では、CARTによる腹水中蛋白の有効活用が低Alb血漿の改善につながり、蛋白製剤使用量の軽減などCARTの利点が示された。施設での実運用を通して臨床的意義を再認識する有意義な内容でした。</p> <p>講演3では、医師の視点からCART治療の実際と臨床的意義について解説され、全身状態や栄養状態の改善など治療効果や日常診療の中でどのように評価されているかが示された。CARTの位置づけを再認識する有意義な講演であった。</p> <p>本講演会を通じて、CARTの臨床的価値と多職種連携の重要性を理解することができた。</p> | | | |
| 参加者 | 合計：72名(会員30名、県外会員38名、講師1名、実務委員3名、非会員0名、賛助会員0名、学生0名、その他0名) 事前参加申込数：125名 | | | |
| 共催、後援など | なし | | | |

合計：現地開催(講師・実務委員・参加者)、
ライブ・オンデマンド配信(講師・実務委員・レポート提出者)

活動報告書

所属：一般研究班 提出日： 令和 8 年 2 月 16 日 報告者：岩崎 卓識

| | | | |
|----------|---|-----------|--------------|
| 行事種別 | 講演会 | 行事番号 | 250022146 |
| 開催日 | 令和 8 年 2 月 14 日(土) | | |
| 時間 | 開始 | 15 時 00 分 | 終了 17 時 10 分 |
| 場所・配信 | リップルスクエア (所在地 名古屋市東区) | | |
| テーマ | 愛臨技精度管理事業 令和 7 年度 一般検査研究班精度管理報告会 | | |
| 生涯教育履修点数 | 基礎教科 | 20 | 点 |
| 司会 | 修文大学 医療科学部 岩崎 卓識 | | |
| 講師 | 1. 「令和 7 年度一般検査研究班精度管理報告会」 社会医療法人明陽会 成田記念病院 望月 里恵 鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 蜂須賀 大輔 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 野村 勇介 2. 「AiCCLS : 髄液検査のリーフレットについて」 医療法人 青山病院 臨床検査科 平田 基裕 | | |
| 内容 | <p>昨年 8 月末に実施した、令和 7 年度一般検査部門の精度管理の報告会と AiCCLS の髄液検査のリーフレットに関する講演を、名古屋市のリップルスクエアにて開催した。</p> <p>講演 1 は令和 7 年度一般検査研究班精度管理の結果報告と詳細解説が行われた。尿定性検査、便潜血検査、フォトサーベイすべてにおいておおむね良好な結果であるとの報告がされた。フォトサーベイは、全ての設問で正解率 95%以上、教育問題についても、全体の正答率が 80%以上であるとの報告であった。フォトサーベイの解説はフィードバックして理解を深めてもらうために、各設問に対して写真を提示しながら、鑑別のポイントを中心に講演が行われた。</p> <p>講演 2 は愛知県臨床検査標準化事業における、髄液検査のリーフレットについての解説があった。愛知県臨床検査標準化事業からはじまり、髄液検査の手順（採取、検査方法、結果の会社）など、実業務にて必要な知識を網羅的に解説していただいた。</p> <p>開催後のアンケートにおいて、多くの方が今回の講演が日常業務の参考になりそうとの感想があった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> | | |
| 参加者 | 合計：19 名（会員 14 名、県外会員 0 名、講師 4 名、実務委員 1 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）事前参加申込数：10 名 | | |
| 共催、後援など | なし | | |

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）